

## 編集後記

茨城県では、平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨で、大きく報道された常総市以外に坂東地域においても多くの収穫直前の稲が被害を受けました。その復旧にあたっては、全国から多くのボランティアの方々にご協力をいただき、ありがとうございました。流入した土砂等の除去なども平成 28 年産水稻の田植えには間に合い、無事、何事もなかったかのように収穫を迎えることができました。自然災害の恐ろしさを痛感するとともに、今後災害の無いことを祈るばかりです。

<眞部 徹>

平成 28 年度の現地検討会においでいただきありがとうございました！至らないこともあったかと思いますがご容赦ください。ちょうど 10 年ぶりの開催で、前回のことは、はるか記憶のかなたでしたが、大嶋支部長の多大なるフォローをいただきながら無事開催できました。次はプライベートでも山梨にお越しいただければ幸いです。

<上野直也>

前年に続きこの1年も温度、雨量ともに極端な移り変わりでした。秋の長雨では水稻が刈り切れなかった所もあったようです。また 11 月の大雪では当所でも果樹の防災網をまだかぶせたままでしたので、総出で棒等で突いて雪落しをしました。寒い日が多かったなという感じですが、花の方はやや早めに進んでいるようです。異常気象が続いている昨今ですが、今年は平穏な天候であることを祈ります。

<北見 丘>

28 年4月に育種部から作物部へ異動となり、編集専門委員を細野哲から引き継ぎました。麦の育種から水稻の栽培試験に仕事が変わり、戸惑うことばかりの1年でした。次年度は「1 年目なので」は通用しないので、戦力となるよう心がけたいと考えるこの頃です。まずは苗試験から。

<上原 泰>

稲刈りが終わってバタバタしていたら、あっという間にまた種まきのシーズンがやってきてしまいました。そんなこんなで今年度で編集委員をかれこれ6年務めさせていただきましたが、こちらもあっという間の6年間でした。来年度も異動がなければ引き続き編集委員を務めさせていただくことになると思います。その時はまたよろしく願います。

<宇賀神七夕子>

水田作の栽培試験を担当して2年になります。水田では水稻や麦のほか、野菜も栽培しています。前年度は暖冬であったために秋冬作の野菜の生育は早く、揃いもよかったのですが、今年度は 9 月の日照不足や 11 月の降雪などにより生育が遅く、揃いが悪く試験の予定が大幅に狂ってしまいました。気象変動が大きくて安定した作物栽培や雑草管理ができるように試験をしなければいけないとあらためて感じました。

<内藤健二>

編集委員2年目、お役に立つどころか、ご迷惑をおかけしているのではと危惧しています。本県、本年は災害も少なく、水稻も登熟期間の高温や収穫期の長雨による品質低下も懸念されたほどでなく、ほっと一安心したところ。「天災は忘れた頃にやってくる」 忘れないようにしたいものです。

<岡田 真>

本誌の発行も回を重ねて 12 号となりました。今号には囲み記事としてコラムの他に植調協会の情報、水稻作況などを掲載してみました。これからも雑草に関わる現場の話題、身近な話題、有効な情報など掲載して内容の充実を図り、本誌をより発展させたいと考えます。みなさんのご意見を関東支部へぜひお寄せいただければ幸いです。ご多忙中、ご寄稿下さった皆さんに心より感謝いたします。

<大嶋保夫>